

(様式2)

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1572200762		
法人名	社会福祉法人 愛宕福祉会		
事業所名	グループホームさど(Aユニット)		
所在地	新潟県佐渡市両津湊343-45		
自己評価作成日	令和3年10月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和3年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームさどでは、</p> <ul style="list-style-type: none">・ご利用者一人ひとりが安心して暮らすことができる。・ご利用者一人ひとりが生きがいをもちながら暮らす事が出来る。 <p>という2つの目標を軸に、ユニット毎、個人ごとに目標を設定し日々の業務に取り組んでいる。</p> <p>建物は、すぐ隣に湖があり、見渡しも良く開放的である。ご利用者も外の景色を眺めるのを楽しみにされている。</p> <p>現在コロナウイルスの影響もあり、ご家族や地域との関係性が薄れてきているのが課題である。さまざまな研修を通して職員の認知症に関する知識やケアの質を上げる事に力を入れ取り組んでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所がある建物は加茂湖畔にあり、事業所がある建物の2階からは加茂湖が一望できる。建物の1階にはデイサービスセンターがあり、研修や災害等の有事の際には連携、協力体制が築かれている。また、建物の隣接には消防署があるため、救急や災害対応の際には迅速に協力を受けることができる環境である。</p> <p>事業所は、管理者を中心に利用者の「私の思い」の大切さを共有しながら、新型コロナウイルス感染拡大に見舞われながらも感染状況が2年目に入り落ち着きも見せ始めたことから、リスクを回避しながら様々な工夫により利用者本位の支援・対応を実践している。家族やなじみの方々との関わりが希薄にならないよう窓越し面会やテレビ電話、写真や手紙など様々な手法を駆使して利用者に関わりを感じてもらっている。外出等も個別に、計画的な形で対応することで希望に沿えるように努力している。今後は感染状況を踏まえながら家族との個別の外出も検討する等、利用者の思いを大切にしようとの姿勢がうかがえる。</p> <p>地域とのつながりも、様々な制約がありながらも、運営推進会議を通じて意見交換がなされ、地域の行事への参加につなげるなどしている。地域の中の一員として溶け込み、役割を果たしたいとの強い思いを持ち、感染終息後を見据えて行動を起こしている事業所である。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内、ユニット内に理念を掲示している。会議等で確認の場も設けている。理念を元に日々の業務、カンファレンスに活かして実践している。	理念に基づいて年度当初にユニット目標、個人目標を設定し、具体的な行動レベルでの目標が設定されている。目標に対しては、半期ごとに会議や個人面談で振り返り、達成状況を評価している。	
2	(2)	グループホームさど(Aユニット) 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で地域の行事も中止になっているものが多く、交流が図れていない。近隣を散歩し、地域の方と挨拶を交わしている。	新型コロナウイルス感染の影響で地域の方々を事業所に受け入れることはできなくなった。一部開催される町内会の行事にはできる限り参加したり、広報紙を回覧板で回して事業所内の様子はお知らせしている。今後は個別に声かけしてボランティア等で交流できるよう依頼していきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ向けた取り組みは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の定期開催をし、4月より書面会議を実施していたが、9月は会議を開催し委員の方に各ユニットの取り組みを報告している。	2ヶ月に1回の開催を新型コロナウイルスの感染状況を見ながら書面開催に切り替えている。利用者からも参加してもらっていたが、現在は感染状況を踏まえ控えてもらっている。メンバーからは、事故やヒヤリハット報告に対して意見をいただくことが多く、改善策に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とはその都度連絡を取り合い協力関係を築くように努力している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、事業所の状況については随時やりとりできている。必要な手続き等は行政支所にて対応してもらっている。新型コロナウイルス感染拡大に対しては、マスクや手袋などの必要物品等の調達や予防接種実施について支援を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を立ち上げ、研修も実施している。身体拘束を行わないように日々の業務や会議の中で職員同士話し合いをしながら具体的な支援を確認している。	3ヶ月に1回委員会を開催し、個別の事例について対応を検討している。法人全体での映像を使った研修もあるが、事業所でも独自の研修を実施し、意見交換ができるようグループワークを行い、共通認識を持てるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で職員同士、ケアや言葉使いについて話し合い振り返りと防止に努めている。またご利用者が虐待だと思わないように相手の気持ちに配慮した言葉使いを意識している。	日常的には疑問に思う場面で職員同士が指摘し合えるようにしているが、管理者等から個別に話をして理解してもらっている。人事考課の項目の中に接遇やマナーに関連した行動考課という項目があり、個別の面談時に振り返りを行っている。事例によっては会議等の機会にテーマとして取り上げて全体で検討している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	倫理綱領の研修は行っているが、職員が成年後見人制度を学ぶ機会は作れていない。制度を利用しているご利用者もいるので、今後は関係各所と相談し、学ぶ場を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはその都度説明を行い疑問や要望に関しても確認し理解を得るように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族からは日々の関わりを通じて意見や要望が聞けるように努力している。意見があった際には職員間で共有し、話し合いその後の対応に活かしている。	面会等の機会を通じて家族から直接意見等をうかがう場面が多かったが、新型コロナウイルス感染拡大による面会制限により、電話や手紙によるやりとりがほとんどとなっている。SNS(LINE)を活用してやり取りできている家族からは、電話よりも気軽に問い合わせや意向を伝えることができると好評で、以前よりも細やかなやりとりができ、個別の対応や運営に素早く対応できている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談や日々の業務、会議を通じて意見や要望が聞けるよう努力している。意見があった際には職員間で話し合いその後の対応に活かしている。	会議で取り上げるテーマを事前確認する中で、職員が意見や要望も含め伝えてくれているが、定期的実施している個人面談時に直接伝えてくることが多い。事業所内で対応できる内容については検討の上即座に対応しており、例として会議の時間設定について変更した。内容によっては統括部門長に話を挙げ検討してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内に人事考課や目標管理などがあり職員の意見を取り入れていく仕組みがある。また管理者として職員に意識的に声を掛け風通しのよい職場環境に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各委員会を主とした研修の実施、法人階層別研修や法人外の研修を勧めている。研修後は復命研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内の8か所のグループホームとは連絡協議会を発足し3か月毎に参集し現状報告をし交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実際に契約に至る過程でなるべく自宅を訪ね入居前にある程度人間関係を築ける様努力している。訪問時に困っている事や不安な事を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同居しているご家族やキーパーソンとなる方とは入居前の訪問時に充分話しを聞けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援が必要なのかを見極め、他事業所についても説明や利用のアドバイスをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者それぞれに役割を持ち職員と一緒に家事等行っている。また、本人の意欲を大切にしながらご利用者と職員が助け合いながら生活している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会禁止が続いている為、窓越し面会やビデオ通話、メールでの情報共有を行っている。 個人差が出てきているのが課題である。	新型コロナウイルス感染拡大により本人と家族が直接触れ合う場面は減っているが、電話だけでなく、窓越し面会やビデオ通話等多様な手段で関わりを維持している。定期的に本人宛にハガキを送ってくる家族もあり、本人が返信を出すことができるよう支援して、互いに絆を感じるができるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会は以前に比べると減っているが、個々に対応することで外出する機会も設けられている。	感染拡大を受け、従来のような来訪や外出の機会を頻繁に設けることができにくくなっているが、本人の希望を受けて、個別の対応を計画的に実施することで、墓参りに行く等の対応ができるようになった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者個々の人間関係や状態に配慮しながら家事や行事等を通して関わりを持てるよう努めており必要時は職員が橋渡ししている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もその都度相談があれば対応する。また他の施設への入所の相談も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者との会話を通じ個々の思いや意向の把握に努めている。会話から得た情報については職員間で共有している。困難な場合はその人の立場になって考えたり関わりやアセスメントシート等のツールを活用して希望や思いを汲み取れるように努めている。	本人の思いの大切さを職員間で共有しており、日頃の利用者との関わりで得られたものだけでなく、過去の記録やアセスメントを見返して、家族にも以前の様子を確認しながら時系列的に思いや意向を把握しようとしている。こうした取り組みによって意向の表出が難しい方に対して、お好きなショートケーキを提供して喜んで食べていただいた事例もある。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用申込時や事前訪問時の情報に目を通し入居前の様子や日々の関わりの中からこれまでの暮らしの把握に努めている。ご家族からも様子を伺っている。	入居前の暮らしの様子については、管理者、計画作成者、リーダーが本人や家族、担当の居宅介護支援専門員や利用している事業所の職員から聞き取っている。聞き取った情報はアセスメントシートに記載して共有している。入居後については、本人や家族等から聞き取り、把握した情報等は相談記録に残して職員間で情報共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化するご利用者様の状態の把握に努めている。出来る事、できない事等のカンファレンスを行い支援の見直しと確認、情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題をもとに職員でカンファレンスを行いご家族、ご利用者とその都度相談し介護計画に反映している。	個別担当職員を中心にユニット職員全員でアセスメントシートに情報を記入し、課題抽出している。本人の希望や要望、家族の希望を踏まえてカンファレンスを実施し、介護計画が作成されている。新型コロナウイルス感染拡大により、計画に位置付けられていたなじみの商店への定期的な買物外出の見直しを迫られた事例もある。	事業所として本人の思いや意向の把握とその実現に力を入れているが、中には、実際に本人の思いや希望を踏まえて支援が提供されているにもかかわらず介護計画の中に明確に位置付けられていない事例がみられる。日常的、定期的に支援が提供されているのであれば、本人、家族、職員がそれぞれ支援内容を意識し、目標達成に向けて取り組むことができるよう介護計画の中に明記するよう検討してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア・実践・結果・気づきなど経過記録に記入し、申し送りでも全職員に周知し情報共有できており介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的に受け入れていたボランティアが、現在全てストップしている状況。対策が必要。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響もあり地域との関りが薄くなってきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診対応してくれている協力病院の医師との関係は良好で一人ひとりの状態をしっかり把握し対応してくれている。本人や家族の希望を伺いながら受診している。	本人や家族の意向も踏まえ、往診も行っている協力病院にかかりつけ医をお願いしている。病院への受診が必要な時は事業所が支援することが多い。訪問看護が定期的に入っており、協力医との適切な連携につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師が24時間オンコール体制を取ってくれている。又、2週に1度、状態確認に来て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はどのような状況であるか聞きに伺ったり退院時にはグループホームに戻っての生活に支障がないように容態に注意すべき所や急変の対応についてその都度相談しながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い医療的加護が必要になった場合など当グループホームで対応できない状況になった事を想定し将来に向けた話し合いを随時している。具体的には医療行為、看取りなどは対応していない。	重度化や終末期の対応状況については、事業所で指針を作成しており、指針に基づき契約時に具体的に身体状態や設備等の現状を伝え、事業所で対応できる範囲について説明している。施設や医療機関への移行についても円滑にできるよう早い時点から話し合い、支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の一般的対応はマニュアル化しており、ユニット会議等で随時振り返りを行っている。職員は普通救命講習を定期的を受講している。感染症や食中毒などの予防、対策も研修を通して行っている。	急変時や感染症等の基本的対応については法人でマニュアルが作成されており、それに基づいた映像研修教材が作成されていて職員は視聴している。実技の部分については事業所内で研修している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、火災を想定した避難訓練を実施している。地域との協力体制はないが、隣接する消防署から指導を受けたりと手薄な夜間に協力が得られるよう要請している。	火災、地震、津波想定避難訓練については定期的実施している。地域からの協力応援を受けることが難しいため、隣接する消防署と避難場所や避難方法等の協力について得られるような体制をとっている。災害発生時の備蓄等については防災委員がリストアップして管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配慮に欠けた言葉がけを避け一人ひとりに合わせた声かけや関わりを行っている。また、利用者間のトラブルの時にもその後の関係に支障がないように双方のフォローをしている。	介助時の声掛けや対応で適切でないと思われる場面があったときはその都度互いに指摘し合ったり、管理者が対応している。場面については会議の中でテーマとして取り上げ、職員全体で振り返り、共通認識を持つ機会を設けている。記録については、パソコンやタブレットによる入力に移行していく予定であり、適切なプライバシー管理が図られる見込みである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の食べたい物や好きな物はメニューに取り入れるようにしている。また、会話の中から希望を引き出しその希望に添えるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時々に応じてご利用者の様子や希望を聞きながら対応している。どうしても希望に添えない時にはきちんと理由を説明し納得して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や食堂へ出る際は、ご自分で髪をとかしていただけるようクンを渡し整えていたりタオルを渡して顔を拭いて頂いている。男性利用者には髭剃りで剃っていただくよう声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が利用者の好みの把握をしながらその人に応じた食事形態で提供している。また、その時期に応じた献立を立て、季節を感じて頂いている。	食材は定期的に発注し、配送される形だが、カタログを利用者から見ながら検討するなど献立は利用者の好みや季節等を踏まえて職員が考えている。個別の好みや形態にも対応しており、魚(刺身)については地元のものを提供したこともある。調理や準備、後片付け等、利用者個々の意向や能力に応じて一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、食形態は個々に合わせ提供している。水分も入居者の希望に応じてお茶だけで無く、本人の好きな飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科との連携を強めている。月に1度往診に来て頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをある程度把握し、日中と夜間でオムツやパットの種類を変えながらご利用者一人ひとりに合わせた誘導や排泄用品を使用している。オムツからパンツになる方は作れていない。	トイレでの排泄ができるよう、排泄パターンを把握した上で声掛けや誘導を行っているが、本人の心理的な部分も尊重しながら安心できる介助や排泄用品を使用している。試供品をうまく活用して、失敗が少なくなるよう退院直後の利用者へ声掛け、誘導した結果、自立につながった事例もあった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分提供を進めている。散歩等軽い運動も個々に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は希望に添えていない部分はあるが入りたい順番や時間を考慮しながら対応している。季節感を感じて頂けるよう、ゆず湯や菖蒲湯など行い工夫している。	入浴の頻度や時間帯については、おおよそ決められているものの、その都度本人の意向も踏まえながら臨機応変に対応している。同性介助の希望や、温度や時間の長さ等の個別の希望についても支障がない限り対応している。変わり湯も実施しており、ゆず湯には事業所で利用者と育てたゆずを使用するなど、より楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの寝る時間に合わせて休んで頂いている。部屋の温度や照明、換気に気をつけ声かけや話を聞いて眠りやすいようケアをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方されると説明書を見て把握しよう心がけている。職員が配薬し各勤務者がその都度2人で確認し服用時ご利用者に直接渡し確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好品のあるご利用者に対しては個別に対応している。本人のニーズが満たされていない時もあるが本人がやりたいことはして頂きながら出来ることや役割が継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で外出の機会は減っているが、行事として花見や紅葉ドライブを計画し外出している。また個別ケアとして、ご家族から了承を頂き外出支援をし気分転換を図って頂いている。	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、以前と比べ機会は減ったが、感染状況をみながら、全体での外出から個別への外出へとやり方を工夫した上で支援している。個別に対応する計画的な外出が主となっており、家族から対応してもらおう個別の外出も再開できればと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しいので事務所で管理している。欲しいものや買いたい物がある時には職員が代行して購入している。個人が買い物に出る事は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご利用者自らの電話も可能である。 ラインを使ったビデオ通話も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が過ごしやすいうように日々の状況や状態に合わせて環境に注意している。季節が分かるようご利用者と一緒に折り紙や画用紙等を使って飾りを作りユニットの飾り付けをしている。また中庭に花等植えたりして季節を感じて頂けるように努めている。	明るさや温度・湿度は管理しており、設定温度から外れるとアラートが鳴る仕組みになっている。過ごしやすくなるよう、テレビの高さや位置について利用者の声を踏まえて決めたりしている。共用部分の整理整頓をしてくれる利用者もおおり、居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の眺めが良いので、ソファやテーブルを設けゆっくりと過ごせるよう工夫している。パブリックスペースの有効活用をしていきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく入居前に使用していた食器類や家具、寝具、日用品を持ち込んで頂いている。居室によってはご利用者の使いやすい物や好みの物が置いてあるが、準備できていない居室もある。	入居時に自宅で使用していたなじみの物を持ち込んでいただくよう積極的にお願している。事業所からお願いして、本人が好まれる写真やゆかりのものを家族から持ってきてもらうこともある。整理整頓や清掃は外部の清掃スタッフが入っているが、本人と一緒に話しながらやっいただくケースもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでありながら障子風のパーテーションでプライバシーを配慮した設計となっている。ご利用者の状態に合わせてベットの位置、タンス、食堂の席など対応している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				